

令和6年11月1日

小野市議会議長  
高坂純子 様

派遣議員 山本 麻貴子

## 議員派遣報告書

先般、実施しました議員派遣について下記のとおり報告いたします。

### 記

#### 1 派遣日

令和6年10月17日（木）～令和6年10月18日（金）

#### 2 派遣議員

平田議員、掘井議員、宮脇議員、村本議員、喜始議員、  
河島三奈議員、前田光教議員、小林議員、山本麻貴子

#### 3 派遣先

第86回 全国都市問題会議

健康づくりとまちづくり

～市民の一生に寄り添う都市政策～ / アクリエひめじ

#### 4 内容

〈1日目〉

**【基調講演】** 生命を捉えなおす—動的平衡の視点から—

福岡伸一 氏（生物学者・作家・青山学院大学教授）

生命は絶えず自分を作り直してバランスをとっている。

生命は『エントロピー増大の法則』に抵抗し続けている。

※エントロピーとは日本語で「乱雑さ」。秩序あるものは、秩序がなくなる方向にしか動かない、という宇宙の大原則のこと。

**【主報告】** 市民の「LIFE」（命・暮らし・一生）を守り

支える姫路の健康づくりとまちづくり

清元秀泰 氏（姫路市長）

姫路市では市民の健康増進に向けた施策を積極的に展開している。

（1）市民による主体的な介護予防を促進

① 軽度認知障害（MCI）等の予防支援

② 生活習慣の改善ならびに各種疾患の早期発見及び重症化予防

- (2) ウォーカブルなまちづくり
  - ① 公共空間の利活用、歩行者利便増進道路「ほこみち」
  - ② Himeji 大手前通りイルミネーション
- (3) ICT を活用した健康づくり
  - ① マイナンバーカードを活用した救急業務の迅速化・円滑化
  - ② 「ひめじポイント」を活用した健康づくりの促進
- (4) 未来を担う子どもたちの健やかな成長を支援
  - ① こどもの未来健康支援センター「みらいえ」の開設
  - ③ 子育て情報の発信  
子育て応援アプリ「ひめっこ手帳」

**【一般報告】** 生き物から学ぶ健康なまちづくり  
谷口 守 氏 (筑波大学システム情報系教授)

人口減少に直面してもメタボ体形から抜け出そうとしない都市をどうコンパクト化していくのか、そのための分析と制度づくりに関わる。健康となるためのまちづくりには、“生き物から学ぶ”という姿勢が極めて有効であると気づいた。

**【一般報告】** 都市そのものを健康にするまちづくり  
～ストレスを軽減し、リフレッシュできるまちへ～  
井崎義治 氏 (流山市長)

#### 1) 「健康都市」という考え方との出会い

WHOの健康都市宣言「従来のように保健・医療分野だけで個人ごとの健康増進を図るのではなく、生活環境や地域社会、学校や企業など、都市のあらゆる分野を視野に入れた取り組みによって、都市そのものを健康にすることで、そこに住む人々の健康で豊かなくらしづくりを推進していこう」というもの。

#### ▶平成19年 健康都市宣言

流山健康都市プログラムを策定し、健康に関わる事業を5つの分野に分け、健康都市施策を多岐にわたり展開している。

- ① 子育て環境の充実・長寿社会対応のまちづくり
- ② 緑の回復・保全と安心・安全のまちづくり
- ③ 地域の豊かな文化とスポーツを楽しめるまちづくり
- ④ 心と体を健やかに育むまちづくり
- ⑤ 安全で健やかな食生活を楽しめるまちづくり

2) 区画整理事業で失う緑を回復する方策

3) 環境価値・景観価値を高める「グリーンチェーン制度と認定制度」

【グリーンチェーン認定の7つの指標】

指標 1) 道路表面の温度上昇抑制

指標 2) 敷地間通風の確保

指標 3) 道路面からの放射熱侵入抑制

指標 4) 敷地内地表面及び建物外壁の温度上昇抑制

指標 5) 排熱とCO<sub>2</sub>排出の抑制

指標 6) 住宅断熱性能の確保

指標 7) 住宅内通風の確保

「都市そのものを健康に」するために「すべての政策に健康視点を」を基軸とした政策の立案を推進している。それにより市民のストレスを軽減し、リフレッシュできる環境整備や施策展開に継続的に取り組む。

【一般報告】 IT/AIの健康分野への適用例

姫路市の健康データ解析と歌唱による誤嚥予防

畑 豊 氏 (兵庫県立大学副学長)

1) 健康データを用いた解析について

①統計解析結果

②ファジィ論理による検診データ評価

12種類の検査項目

BMI、SBP (収縮期血圧)、DBP (拡張期血圧)、TG (中性脂肪)、HDL (HDL コレステロール)、LDL (LDL コレステロール)、GOT、GPT、GTP (γ-GTP)、HbA1c (ヘモグロビン A1c)、CRE (クレアチニン)、UA (尿酸)

③ファジィ値を用いた解析結果

④ファジィ統合検査指数の導入

2) AIによる嚥下解析とその歌唱による誤嚥への挑戦

歌唱者と非歌唱者を対象にRSSTを実施。

言語聴覚士がおこなう嚥下機能評価をAIを使って実施。

その結果、歌唱者は非歌唱者より統計的に優位であることを示す。

〈2日目〉

【パネルディスカッション】

▶進行

健康づくりによるまちづくり

パネルディスカッションにあたって

宮本太郎 氏（中央大学法学部教授）

▶パネラー

三木崇弘 氏（高岡病院児童精神科医）

心理社会面から見た、子どもの健康

奥村圭子 氏（NPO法人日本栄養パトネット理事長）

食を切り口とした1人1人の望む暮らしを支援する

栄養パトロール事業

栄養パトロールで得たフォローアップが必要な方の情報を共有、支援方法を検討確認する会議としてコネクト会議を開く。

今井 敦 氏（長野県茅野市長）

未来型「ゆい」で紡ぐ健康高原都市・茅野の構築

南出賢一 氏（大阪府泉大津市長）

「未病予防対策先進都市」をめざした

「官民連携」「市民共創」のまちづくり

## 5 所 感

全国市長会主催の『第86回全国都市問題会議』に参加。

テーマは『健康づくりとまちづくり』。

1日目は基調講演として生物学者の福岡伸一氏。幼い頃から『虫オタク・顕微鏡オタク』であったと。そして観察するなかで“サナギの中はドロドロだ”ということを知り、『何かのカタチができる前には大きな破壊がある』と理解にいたったエピソードが面白い。『生物は固体でなく、流体である』『生き物は変わらないために部分的に変わり続けている』など。『生物は生きるために積極的に壊す。組織も街もそうであるべきではないか』という、生物の動的平衡をまちづくりに置き換えた講演でした。

姫路市 清元市長の講演。国宝姫路城があり、歴史と町並みを大切に、さらに

人が対流するまちづくりをされていることが素晴らしいと感じた。大手前通りを歩行者利便増進道路（ほこみち）とし、楽しみながら自然と歩いてしまう仕組み。様々な目的で人が集まってくる場があることが素晴らしいと感じました。

#### 一般報告

谷口氏は人口減により都市が拡散してしまう。生命体として維持するためには『まちの体質改善』が必要。各市が分散・競争せず強調することが必要ということ。問題を含め共有することが大事なのではないか。

流山市の井崎市長、平成19年に健康都市宣言。「都市そのものを健康にすることで、住む人の健康な暮らしづくりを推進する」という報告。

畑氏は姫路市の健康データの解析。検査結果の数値をファジー値で見える化することで、検診結果の視覚化に役立つということ。自分の健康状態が平均と比べてどうなのか？過去の自分と比べてどうなのか？ということが視覚的に確認しやすくなることで、意識改革につながるのではないかと感じました。

#### 2日目のパネルディスカッション

児童精神科医の三木先生。診察する中で感じることは「完璧主義」と「ネガティブな自己表現の苦手さ」というお話しでした。心理的安全を優先し、子どもが元気になるまちづくりこそが未来につながると感じました。

奥村氏の山梨市栄養パトロール「重層的支援体制整備事業」食を起点として個々の健康問題を見つけるシステム。様々な情報共有を重ねることで声なきSOSを拾い上げられるのだと感じました。

茅野市は令和4年国家戦略特区「デジタル田園健康特区」に指定され、令和6年「小児オンライン相談サービス」をスタート。

泉大津市は「泉大津市健康づくり推進条例」を令和5年4月から施行。未病予防対策先進都市を目指している。健康に関する学びの場を提供することにより、事実を知って判断できる材料となっている。また、地域の集まりやイベント、職場などに専門職が出かけさまざまな健康チェックで健康状態を見える化し、健康づくりをサポートする『おでかけ保健室』。3つのコースがありいろんな興味・年代の人に参加してもらえる取り組みとなっています。

2日間「健康づくりとまちづくり」というテーマに沿った、さまざまな切り口の講演を聴くことができ、今後の小野市の取り組みにも、私自身の活動にも反映できることがあると感じました。